

今年も師走に入り、オホーツク海のホタテガイ漁業は操業がほぼ終了しました。オホーツク管内の今年のホタテガイ生産は、生産量が約 17 万 t、生産額が約 290 億円(いずれも暫定値)であり、近年にない豊漁となりました。この生産量及び額は、ともに全道漁業生産 (H24 年(速報値)：生産量 120 万 t、生産額 2,456 億円) の 1 割を遙かに超えており、正に北海道の水産業とオホーツク地域を支える重要な漁業と言えます。

▼さて、網走水試では先週(12/12)、宗谷～根室管内の漁協や水産技術普及指導所の職員に出席して頂き「ホタテガイ担当者会議」を開催しました。この会議は、ホタテガイに関連する調査研究の内容を、現場でホタテガイ漁業の指導に当たっている方々に理解して頂き、今後の調査研究の進め方等について意見交換することを目的にしています。また、出席者に情報交換の「場」として活用してもらい、オホーツクのホタテ担当者の水平的なネットワークづくりを図ることも大きな目的としています。

▼今年の会議は 3 部構成で行いました。第一部では、今年春先からみられた貝柱の「硬化」や「高歩留・高グリコーゲン含量」の状況に関して水試が取り纏めた各漁協へのアンケート結果を報告するとともに、出席者から直近の状況や課題、試験研究への要望など様々な情報を提供して頂きました。第二部では、ホタテガイの「成長モニタリング調査」、「外海採苗安定調査と浮遊幼生自動解析技術開発」や貝柱の分析で得られた「今年の貝柱品質の特徴」、「赤橙色貝柱(赤玉)の機能性成分」等について研究情報の提供を行いました。第三部では、現在進めている「海底画像を利用したホタテガイ高精度資源量推定技術開発」の進捗状況とその実用化に向けた次年度からの取り組み内容を説明し、この技術を実際に利用する漁協担当者の方々から、撮影装置や解析ソフトに対する意見や要望を頂きました。

▼会議の中で、出席者からは「今年の好餌料環境による各浜の(来年以降に漁獲する) 2、3 年貝の成長状況」や「今年は冬に近づいても海水温が高い」、「例年になく生殖腺の発達が早い」といった最新の情報が提供されました。また、「海底画像による資源量推定技術に関心がある」との発言やその実用化にあたっては「複数の底質が混在している漁場への対応」、「長時間の連続撮影」、「正常に撮影できているかを確認できる仕組み」等が必要との意見が数多く出され、新たな技術開発に対する関心と期待の高さが実感されました。

▼網走水試では、これらの情報や意見を踏まえ、ホタテガイに係わる調査研究の効果的な推進とわかりやすい研究情報の迅速な発信に努めていきたいと考えています。特に、来年度からは高精度資源量推定技術の実用化を目指し、より多くの漁場で海底画像の撮影調査を予定しています。撮影調査へのご協力とともに、「現場で使う」ためのさらなる改善点や意見などをお聞かせ下さるよう、よろしく願いいたします。